

C22c 明石市立天文科学館に収蔵されている観測機器等の展示資料について

井上毅（明石市立天文科学館）

明石市立天文科学館は日本標準時子午線の真上に建つ「時と宇宙の博物館」である。1960年に開館して以来天文に関する観測機器の収集・展示を進めてきた。主な資料としては、1874年に金星の太陽面通過を神戸で観測されたフランス隊が残したとされる子午儀、明石市で東経135度日本標準時子午線の位置を測定した経緯儀や子午儀、日本で初めて導入された原子時計、江戸期から現在にわたる国内外の日時計資料など天文学史、科学技術史に価値のあるものとなっている。またプラネタリウムは開館以来カールツァイスイエナ社製のものを使用し続けており、日本のプラネタリウムにおける初期の投影機を知る資料としても価値あるものとなっている。本発表では当館所蔵の観測機器等の展示資料について紹介する。